Interview

新和建設だより
～新和のわ～

vol. 3

2026年6月25日発行

土木部 **松山 裕三**（まつやま ゆうぞう）

新和建設で30年以上現場を守り続けてきた松山裕三さん。歴代社長との信頼関係を原動力に、自然とまとめ役を担う、実直で温かい人間味に迫ります。

未経験でのご入社だったそうですが、駆け出しの頃の経験をお聞かせください。

前職は生コン工場に勤務しており、土木は未経験でのスタートでした。入社直後、下水道工事の現場代理人（現場の責任者）を任されました。右も左も分からず不安を口にしましたが、「大丈夫だから」と背中を押され現場に向かったのを覚えています。

現場では見よう見まねでしたが、投げ出さず協力会社に教えを請いながら作業を覚えました。どうしても終わらないときは、「人を集めて」と頼んで終わらせました。事前に周囲へ相談して失敗を防ぎ、少人数で数々の現場を納めてきた経験が、今の自分の基盤になっています。

どんな現場も引き受けてこられましたが、長く仕事を続けられる理由は何でしょうか。

先代からの会社の方針として、仕事を断らないのは当たり前のことでした。それでも、難しい現場から逃げずに取り組めるのは、社長の温かい理解があるからです。

利益が見込めないと意見しても、プレッシャーをかけず、「まずは現場を終わらせて」と送り出してくれる大らかさに助けられてきました。過度な重圧がないからこそ、反対に「しっかり終わらせよう」と穏やかに現場へ向かえます。歴代社長が常に大きな視点で現場を見守ってくれたからこそ、30年以上仕事を続けられたのだと思います。

長年のキャリアの中で、特に大変だった時期はどのように乗り越えてこられましたか。

近年増えた点在工事（複数の離れた場所で行う工事）の担当時期は、非常に大変でした。3年前の急傾斜工事では、3箇所の現場を私1人で管理しなければならず、現場間の移動だけで40分かかりました。12月頃には工事が重なり、写真撮影や測量、業者との打ち合わせを1人で回すのは物理的に厳しく、「これ以上は無理」と限界を感じたこともあります。

そんな状況を乗り切れたのは、仲間の協力のおかげです。社長に相談したところ、後輩がサポートに入ってくれました。後輩に写真撮影を任せ、自分が別の現場へ向かうと分担し、無事に現場を終わらせられました。

20年以上前、翌日の検定（発注者による工事の検査）を控えて夜遅くまでインデックス貼り（書類に見出しシールを貼る作業）をしていたとき、先輩が残って手伝ってくれました。膨大な作業を手伝ってくれた嬉しさは今でも覚えています。1人ですべてできるわけではないので、みんなの協力があってこそ無事仕事を完遂できるのだと思います。

後輩の指導や若手社員への接し方において、心がけていることはありますか。

先輩にしてもらった恩返しといった綺麗な話ではなく、関わることで仕事がスムーズに進むから一緒にやっているだけです。春先から自分が現場に出る6、7月頃までは、維持業務（道路や施設の点検・補修など）の部署で若手と一緒に作業をします。「手伝わなくていいです」と気遣われても、一緒に作業するようにしています。一緒に作業すれば、不満や面白い話も聞けますし、そこから仕事が円滑に進むきっかけになります。

現在の目標は、若手が1人で現場を回せるようになることです。そのため昨年は、3つの現場のうち1つで、事前の段取りをすべて任せ、あえて自分で考えさせてみました。

「わからなかったら過去の資料を全部渡すから」とバックアップを用意した上で、時間がかかっても手を出さずに待ちます。合っているかは誰も分からないし、良し悪しも終わらないと分かりません。現場の途中で気づけば軌道修正すればいいので、とにかく最初から最後まで段取りを考えてみて、と伝えています。

これからもただ全てを教えるのではなく、任せるべきところは任せて、成長を見守りたいと思います。

決して投げ出すことなく現場をやり遂げてきた松山さん。歴代社長の寛容さに応え、今は若手の身近な相談相手となっています。その飾らない実直な背中から、新和建設の風通しの良さと安心感が、次世代へと確かに受け継がれていくことでしょう。

うちの部署の「ココが自慢！」

今回は河村さんに、他部署にはあまり知られていない維持部門の現場のこだわりや仕事の工夫を伺いました。地域の方からの言葉、部署を越えたチームワークなど、仕事への誇りとやりがいが伝わる現場のリアルな声をお届けします。

Vol.01 維持部門の誇り

維持部門
現場代理人　河村（かわむら） 道明（みちあき）さん

ひそかにココが自慢！

維持部門の強み

地域の方から感謝される丁寧な仕事

一番に心がけているのが、地域にお住まいの方に迷惑がかからないよう、早く安全に業務を遂行することです。その結果、作業中に**地域の方から「ご苦労さまです」とねぎらっていただいたり、清掃後に「きれいになりましたね」と声をかけていただいたり**することもしばしば。そのたびにやりがいを感じています。

迅速な作業を支える密な連携

業務を早く安全に進めるためには、密な連携が欠かせません。経験の浅い職員も多いため、わからないことがあればすぐに連絡を入れるよう全員に伝えています。なお、見た目だけがすべてではありませんが、できる限り**現場の作業はきれいに仕上げる**よう心がけており、**担当責任者の確認後、最終的に私も写真で確認**してから作業を完了させています。

働きやすい環境づくり

維持作業に関わる全員が働きやすい環境を整えたいと考えています。そのために、「こうした方が良いのではないか」とお互いに意見を交わしながら、全員で働きやすい環境をつくっていくことを大切にしています。

明日から真似できる！

仕事の工夫や時短術

作業内容の細分化

タスク管理や段取りにおいて大切にしているのは、作業内容を一つずつ分けて詳細を確認すること。その上で、必要な人員を割り出し、各メンバーに指示を出しています。この確認を怠ると人員配置もうまくいかなくなってしまうため、まずは作業内容をしっかり把握することを心がけています。

優先順位を決める

事故やけがなく安全に作業できるよう、最初に何を行うか優先順位を決め、順序立てて計画してから作業を進めます。また、**複雑な案件の場合は、朝のミーティングで図を描き、車の配置などを書き込んで全員で共有**して円滑に進める工夫もしています。
こうして計画通りに作業が早くきれいに、そして安全に終了したときに一番の喜びを感じます。

現場から皆さんへ……

伝えたいリアルな思い

部署を越えたサポートに感謝！

現場では、路面清掃などで多くの人数が必要になることも。その際、他部署の皆さんが、自分の仕事が落ち着いたタイミングで自主的に手伝いに来てくれることがあります。皆さんが「少し手が空いたから手伝うよ」と声をかけてくれるのは、昔から自然と根付いている当社の文化のようなものです。現場としても大変助かっています。

俺の現場メシ

毎日の業務の中で、ほっと一息つけるお昼時。皆さんはどんな「現場メシ」から力を得ていますか？今回は澤田さんの「現場メシ」を、温かなエピソードをお届けします。

工事部
澤田（さわだ） 一意（いちい）さん

私の現場メシは……

母の手作りお弁当

母が毎日作ってくれるお弁当が、私の最高の現場メシです。普段のご飯は数種類のふりかけやフレークのローテーションですが、たまに大好きな「わかめご飯」の日に当たると一気にテンションが上がります。めったに出会えない特別感もあり、たとえ仕事で気分が落ち込んでいても、すぐに立ち直って元気になれます。

お気に入りポイント

自分自身が少し子供舌で、甘いものやしょっぱいものが好みなのですが、お弁当に定期的に入っている「ピーマンの塩コショウの炒め物」が特にお気に入りです。これを食べると現場でも一気に元気が湧いてきて、午後からの工事も安全に、しっかりと進めることができます。

現場メシの思い出

毎日の活力に

出勤する時間がどんなに早い日であっても、毎日必ず母が手ずから作ってくれるお弁当は、私にとって毎日の大きな楽しみです。お弁当箱を開くたびに「今日も頑張ろう」と、その日１日を働くための大きな活力になっています。毎日欠かさず用意してくれる母には、感謝の気持ちでいっぱいです。